

学生の発表論文と受賞

受賞者氏名：若林和也（人間形成学科）

受賞名：日本科学教育学会・若手活性化委員会・ベストプレゼンテーション賞

受賞年月日：2016年12月17日

受賞理由：「中学校理科の教師用指導書における教師の学習支援」に関する研究と発表が非常に優秀であると評価されたため。

受賞者氏名：上枝千明（人間環境学科）澤邊久美子，池田勝，大野朋子

受賞名：平成29年度日本造園学会関西支部賞

受賞年月日：2017年10月15日

受賞理由：研究・事例報告発表セッションにおける本研究発表「人工展示物と野外体験活動が幼児教育に与える影響」が優秀であると認められ，今後の発展を期待されたため。

受賞者氏名：小池貴之（人間環境学科），小林徹哉，上森真広，大野朋子

受賞名：平成29年度日本造園学会関西支部賞

受賞年月日：2017年10月15日

受賞理由：研究・事例報告発表セッションにおける本研究発表「近畿地方における企業の森づくり制度の現状と課題」が優秀であると認められ，今後の発展を期待されたため。

受賞者氏名：門井美香（人間環境学科），森本幸太郎，高見泰興

受賞名：Journal of Ethology 論文賞（日本動物行動学会）

受賞年月日：2017年12月4日

受賞理由：当該論文 (Male mate choice in a sexually cannibalistic species: Male escapes from hungry females in the praying mantid *Tenodera angustipennis*. Journal of Ethology, 35: 177-185) が2017年の最も優れた論文として評価された。

著者：稲葉琢人（人間環境学科），田畑智博，蔡佩宜

論文題目：Development of a Basic Rate of Household Energy Consumption Considering Usage Time and Quantity of Consumer Durables

（家電の使用量・使用時間を考慮した家庭のエネルギー消費量原単位の作成）

雑誌・巻号・ページ・年月：Journal of Sustainable Development of Energy, Water and Environment Systems, 5, pp.533-545, 2017.12

論文の概要：人口減少や少子高齢化等の進展により，家庭部門におけるエネルギー消費構造が今後変化していく可能性がある。エネルギー消費量の将来推計においては，世帯類型別（世帯人数，世帯主年齢等）でのエネルギーの使い方を反映したエネルギー消費原単位の

整備が必要である。本研究では、神戸市において、エネルギー（電力、ガス、灯油）を使用する耐久消費財の使用時間と保有数量をもとに、世帯類型別のエネルギー消費原単位を作成することを目的とする。まず、アンケート調査と Web 調査を通じて、神戸市の 1 世帯あたりエネルギー消費量を推計した。これを統計処理することにより、世帯人数・世帯主年齢別のエネルギー消費原単位を作成した。これを用いて神戸市全体のエネルギー消費量を推計した結果、年間 25,559TJ と試算された。また、神戸市の世帯数の将来変化を考慮して家庭部門におけるエネルギー消費量の将来推計を行った結果、2035 年のエネルギー消費量は 2010 年と比較して約 6%減少することがわかった。